

熊日1968.09.27

水俣病とわたし

公害病と取り組んだ人たちの声

「究で早くから明らかに
なっていたにもかかわらず、ウ
ヤマヤのちにやみに知られ
ようとされた。水俣病を取
り巻く政治状況そのものが
「水俣病症状」を呈していた
のである。

だがそのなかにあつて水俣
病と取り組む、原因究明に、
患者救済に当たり、病者と生
活苦と戦う患者たちを暖かく
見守り、励ましてきた多くの
人々がいる。そのなから熊
大医学部の研究陣を除く何人
かの人たちに「水俣病を私に
語ってもらった。ノーマア・
水俣病の祈りをこめて」。

水俣病の原因はチッソ水俣
工場の排出したメチル水銀化
合物一つに厚生省の見解が
出た。病生という実に十五年
という長い歳月を経てやっと
出された国の正式見解。お
そすぎたとはいえず、長い闘争
しんできた濃集と患者にとつ
てはやはり大きな福音であ
る。これにより濃集補償や服
者救済対策は大きく前進する
ものと期待されている。

しかし、水俣病の原因究明
―政府見解発表の過程では、
あまりにも厚い政治の力へが
あつた。工場廃液が原因であ
ることは熊大医学部の研

救済に全力つくせ

欲しかった早期の決断

キッチンとあと始末を

解決、やはり話合いで

小説「海の牙」の

作家 水上 勉



政府見解発表に意見を述べる水上勉氏

公害認定によって当然企業責任を問われるわけだが、公害を出した企業がイメージ・ダウンを気にするならば非常におかしいと

結論、しかもわかつていた結論をあいまいにし、十何年一応の処置で済ませてきたのなら、それこそダウンそのものである。企業はいろんなケースを想定して、自社の研究部門で研究を進め、自分の力で患者の救済と設備の改善をはかるべきで、もし圧力をかけたとか最終的解決に目を延ばしていたの

なら、人道的にも救済していくことが許せないことである。非をきとって改善に乗り出すことで、企業のイメージ・アップであろう。

政府見解の発表もまた遅れた。部門、部門で政治をやっていくのだから、今度のような特殊なケースに、いちいち振り回していく暇がないことはよくわかるが、厚生という部門、場所はどういうケースに最も気をはりを持たねばならないところである。過去の厚生大臣がそういう気くほりをしなかった、無関心だったということだろう。それと日本の官僚制度が持つ性格もある。官僚は立身出世を願うものであり、事実であっても事実のように思つてという表現、遠慮してものを言う傾向がある。一般に言われるように厚生省に対する業界の圧力など、私は無かったと思う。ただ遠慮深いばかりで勇氣ある官僚がいなかったということではないかと思う。圧力の事実があったとすれば、その時は当然被害者側に立って主張しなければ

ならないのが厚生省だろう。遠慮深くて腰が重かったというところではないだろうか。腰を上げさせた岡田さんはえらいと思う。

一時、工場の撤退とか五カ年計画の延期という企業側の姿勢が報道されたが、私はこの時はど企業のこわさというものを痛感したことはない。工場はすでに相当の金をつぎ込んでいると聞いているが、粒々辛苦してためた金なら、撤退など断々しと言えないはずである。それが苦勞せずどこからひっぱり出した金だから、もつやめたなどと簡単に言えるのではないだろうか。それが企業の恐ろしさというものである。

患者の間に訴訟派と話し合い派とあることは聞いている。私はやはり話し合った方がいいと思う。要求する場合でも常識というものがあろう。どれくらいの線を出すのか知らないけれども、撤退をおわせるくらい、捨てる金があれば、話し合いで出た金額に出すくらい、なんでもないのでなかろうか。聲張りを張って根本の問題からすれずに、本気で話し合いなさい。それが企業にとってイメージ・アップにつながると思う。なんといつても企業に対する政府ならびにわれわれ国民の監視が足りなかったことは、このさい深く反省せねばならないと思う。